

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

| | | | |
|---|-------------------------|-------|------|
| プログラム名称 | 重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム | 申請大学名 | 群馬大学 |
| 申請大学長名 | 高田 邦昭 | | |
| プログラム責任者 | 和泉 孝志 | | |
| <p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って着実に進展しており、医工連携のオンリーワンのプログラムとして大学をあげて取り組んでいる。 ・博士課程のカリキュラムが改編され、平成24年度から重粒子線医工連携コースにおいて6名の学生を受け入れており、学生の意欲も感じられる。 ・計画に沿った体制が概ね整備されているが、大学における当面の課題として、志願者の増加、学生の達成度評価システムの開発、広報機能としてのwebページの開設等があげられる。 ・本プログラム対象学生への経済的支援策として、日本人・外国人を区別せず三段階の奨励金を設定し支給を行っている。 ・プログラム支援対象学生向けに重粒子線医学センターの施設を土日開放する、研究用装置を本プログラムの経費で増設するなど、研究環境の充実が図られている。 ・平成24年4月入学の6名の学生以外に秋入学での募集を予定している。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の重粒子線治療装置が稼働して2年と間もないことから、今後、がん治療データを蓄積しつつ、数年後には、治療成績を他の治療法の成績と比較検討できるよう、緻密な全体計画が求められる。この点が、重粒子線治療の教育研究基盤として重要である。また、治療成績は、癌腫ごとに広く周知していくことが求められる。 ・がん治療における重粒子線治療装置の優位性を通して、本プログラム対象学生の研究意欲が高まり、研究テーマもより明確になっていくことが期待される。 ・外国人留学生在が修了後、本国に戻った場合でもリーダーとして活躍できるようなキャリアパスを大学として支援することが望まれる。 ・限られたプログラム支援対象学生に対し国費が投入されるという費用対効果を意識しながら、更に多くの学生をリクルートし、プログラムの運営・充実に努めることが望まれる。 ・本プログラムの支援対象学生が自立して研究し、個性を伸ばすことができるようになるためにも、メンターの役割は重要であり、発展的に拡充していくことが望まれる。 ・本プログラムにおける取組や成果が学内の先導的なモデルとなり、群馬大学全体が更にレベルアップするような波及効果が期待される。 ・本プログラムは、医工連携の成果を発揮する絶好の機会であり、プログラムに関する成功や失敗を記録し、システムとして発展していくことが期待される。 | | | |